

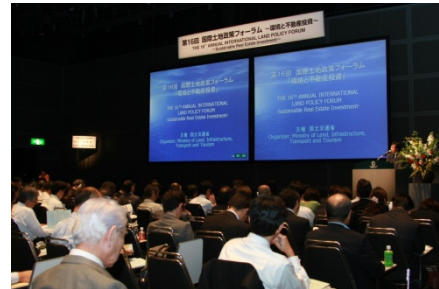
第16回国際土地政策フォーラム概要

国土交通省では、「土地月間」の公式行事の一つとして、毎年10月に「国際土地政策フォーラム」を開催している。第16回目を迎える今年の国際土地政策フォーラムでは、「環境と不動産投資」をテーマとし、次世代へ継承する持続可能で豊かな社会づくりの実現を目指し、環境に配慮した優良な不動産ストックの形成に向けた不動産投資のあり方、その役割と課題について、国内外の有識者に講演いただいた。

日時：平成21年10月14日（水）13:00～17:00

場所：東京国際フォーラム「ホールD7」

主催：国土交通省



第1部 講演会

- 13:15～13:45 ゲイリー・パイボ氏（アリゾナ大学教授、UNEP FI PWG アドバイザー）
「将来の環境のために不動産投資を通じてできること」
- 13:45～14:15 ポール・マクナマラ氏（PRUPIM 不動産サーチヘッド取締役、UNEP FI 共同議長）
「環境面で持続可能な不動産への投資が意味すること」
- 14:15～14:45 デビッド・ウッド氏（ボストンカレッジ企業市民センター責任投資研究所長）
「責任ある不動産投資の浸透：理論から実践へ」

第2部 パネルディスカッション

- 15:10～15:35 ≪基調講演≫
野城 智也氏（東京大学生産技術研究所所長）
「日本におけるサステナブル不動産投資の展望」
- 15:35～15:50 ≪パネルディスカッション≫
＜コーディネーター＞
伊藤 雅人氏（住友信託銀行不動産総合コンサルティング部 鑑定・CSR 担当次長）
- ＜パネリスト＞
ゲイリー・パイボ氏（アリゾナ大学教授、UNEP FI PWG アドバイザー）
ポール・マクナマラ氏（PRUPIM 不動産サーチヘッド取締役、UNEP FI 共同議長）
デビッド・ウッド氏（ボストンカレッジ企業市民センター責任投資研究所長）

「責任ある不動産投資(RPI)」に関するアンケート等の実施について(案)

◆趣旨

国内の機関投資家等を対象に、国連環境計画金融イニシアティブ・不動産ワーキンググループ (UNEP FI PWG) が提唱する「責任ある不動産投資 (RPI : Responsible Property Investment)」の考え方がどの程度認識されているか、特に環境に配慮した不動産投資に対しどのようなスタンスであるかを把握することを目的に、アンケート調査を実施する。

アンケートの実施に際しては、国土交通省が設置する有識者委員会「環境価値を重視した不動産市場のあり方研究会」において、UNEP FI PWG との共同実施可能性について検討中。

◆「責任ある不動産投資(RPI)」とは

国連環境計画金融イニシアティブ・不動産ワーキンググループ (UNEP FI PWG) では、「責任ある不動産投資 (RPI)」を、“最小限の遵法性の確保のみならず、環境(Environment)、社会(Social)および企業統治(Corporate Governance)にわたる諸々の課題(ESG 問題)に対処するための不動産投資・運用戦略”と位置付けている。

UNEP FI PWG は、このような RPI の考え方を世界中に普及するために、先進的な機関の取り組みを事例集として示し、また今後そのような取り組みを考える機関のためにツールキット (手引き) 集の発刊を進めている。

【参考】

- ① 「Building Responsible Property Portfolio」
(先進的な機関が、不動産投資にどのように ESG 問題を組み入れているかに係る事例集)
- ② 「Responsible Property Investing – What the leaders are doing」
(先進的な機関による RPI 取組の事例集。日本の企業も一部紹介)
- ③ 「責任不動産投資手引集 1 Committing and Engaging (約束と関わり合い)」
(UNEP FI PWG が今後発刊を進める手引集の第 1 集)

◆アンケート概要(案)

【対象】 機関投資家 (生損保、運用会社)、金融機関、ファンド、REIT マネージャー、事業金融など、合計 50 社程度

【時期】 調査票の作成・送付：平成 21 年 12 月
調査票の回収・分析：平成 21 年 2 月

【内容】・「責任ある不動産投資 (RPI)」に対する認知度

- ・ E(環境)、S(社会)、G(企業統治)を重視した投資への取組レベル及びその推進／阻害要因となっている事項 (※特に環境に配慮した不動産への投資のスタンス)